

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年6月22日(2006.6.22)

【公表番号】特表2005-529938(P2005-529938A)

【公表日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2005-039

【出願番号】特願2004-510709(P2004-510709)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/357 (2006.01)

A 6 1 K 9/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 K 31/295 (2006.01)

A 6 1 K 31/366 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 39/06 (2006.01)

C 0 7 D 493/18 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/357

A 6 1 K 9/14

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/48

A 6 1 K 31/295

A 6 1 K 31/366

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 39/06

C 0 7 D 493/18

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月8日(2006.5.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

癌の発生を防ぎまたは遅延させるための医薬の製造におけるフリーラジカル生成剤の使用。

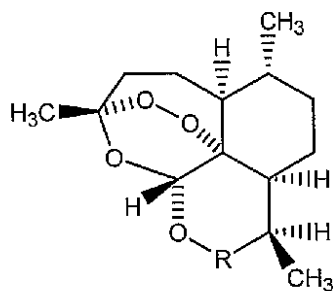
【請求項2】

請求項1に記載の使用であって、前記フリーラジカル生成剤が、セスキテルペンラクトンおよびセスキテルペンアルコール、セスキテルペン炭酸塩、セスキテルペンエステル、セスキテルペンエーテル、およびセスキテルペンスルホン酸塩、アルテフレン、1, 2, 4-トリオキサン、および1, 2, 4, 5-テトラオキサンからなる群から選択されるエンドペロキシド化合物である、使用。

【請求項3】

請求項2に記載の使用であって、前記エンドペロキシド化合物が、以下の式の化合物およびその薬学的に受容可能な塩：

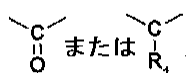
【化 1】



であり、

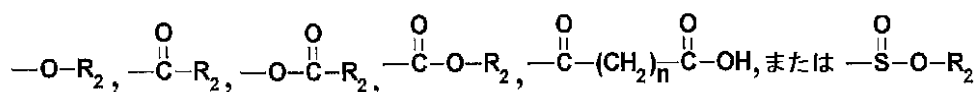
R が、

【化 2】



であり、R₁ が、水素、ヒドロキシル、アルキル、または以下の式：

【化 3】



を有し、

R₂ が、アルキルまたはアリールであり、そしてnが1～6である、使用。

【請求項 4】

請求項 2 に記載の 使用 であって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテミシニン、ジヒドロアルテミシニン、アルテムエーテル、アルテエーテル、アルテスネート、アルテリン酸およびジヒドロアルテミシニンプロピル炭酸塩からなる群から選択されるセスキテルペンである、使用。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の 使用 であって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテミシニンである、使用。

【請求項 6】

請求項 4 に記載の 使用 であって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテムエーテルである、使用。

【請求項 7】

請求項 2 に記載の 使用 であって、約 0.1 mg/kg ～ 約 20 mg/kg の前記エンドペロキシド化合物が、一日毎に前記被験体に投与される、使用。

【請求項 8】

請求項 2 に記載の 使用 であって、前記エンドペロキシド化合物が、経口的にまたは局所的に投与される、使用。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の 使用 であって、前記フリーラジカル生成剤が、アルテミシニンであり、前記 医薬 が、一日当たり約 0.1 mg/kg ～ 約 20 mg/kg の間の投薬量で 投与される、散剤、錠剤、またはカプセル剤の形態で ある、使用。

【請求項 10】

請求項 1 に記載の 使用 であって、前記フリーラジカル生成剤が、癌の発生の遅延を提供する、使用。

【請求項 11】

請求項 1 に記載の 使用 であって、前記フリーラジカル生成剤が、癌の発生の減少した可能

性を提供する、使用。

【請求項 1 2】

請求項 1 に記載の 使用 であって、前記医薬が、細胞内鉄増加剤をさらに包含する、使用。

【請求項 1 3】

請求項 1 2 に記載の 使用 であって、前記細胞内鉄増加剤が、フェロコリネート、フェログリシン流酸塩、デキストラン鉄錯体、ペプトン化鉄、鉄ソルビテクス、酸化第二鉄、サッカレート鉄、ホロフェリチン、およびホロトランスフェリンからなる群から選択される、使用。

【請求項 1 4】

癌の発生を防ぎまたは遅延させるための、フリーラジカル生成剤および該フリーラジカル生成剤を使用するための指示書を含む、キット。

【請求項 1 5】

請求項 1 4 に記載のキットであって、前記フリーラジカル生成剤が、セスキテルペンラクトンおよびセスキテルペンアルコール、セスキテルペン炭酸塩、セスキテルペンエステル、セスキテルペンエーテル、およびセスキテルペンスルホン酸塩、アルテフレン、1, 2, 4-トリオキサン、および 1, 2, 4, 5-テトラオキサンからなる群から選択されるエンドペロキシド化合物である、キット。

【請求項 1 6】

請求項 1 5 に記載のキットであって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテミシニンである、キット。

【請求項 1 7】

請求項 1 5 に記載のキットであって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテムエーテルである、キット。

【請求項 1 8】

請求項 1 4 に記載のキットであって、該キットが、鉄増加剤および該鉄増加剤の使用のための指示書をさらに含む、キット。

【請求項 1 9】

癌の発生を防ぎまたは遅延させるための、フリーラジカル生成剤を含む薬学的組成物。

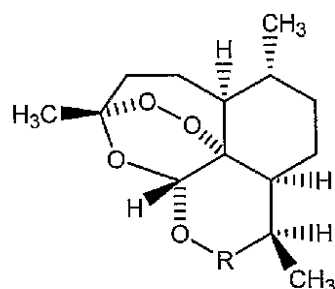
【請求項 2 0】

請求項 1 9 に記載の組成物であって、前記フリーラジカル生成剤が、セスキテルペンラクトンおよびセスキテルペンアルコール、セスキテルペン炭酸塩、セスキテルペンエステル、セスキテルペンエーテル、およびセスキテルペンスルホン酸塩、アルテフレン、1, 2, 4, 5-テトラオキサン、および 1, 2, 4, 5-テトラオキサンからなる群から選択されるエンドペロキシド化合物である、組成物。

【請求項 2 1】

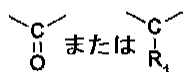
請求項 2 0 に記載の組成物であって、前記エンドペロキシド化合物が、以下の式の化合物およびその薬学的に受容可能な塩：

【化 1】



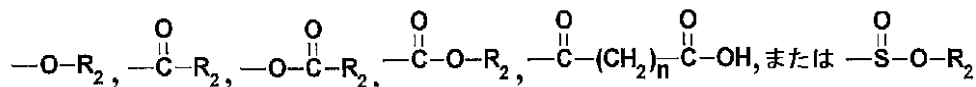
であり、
R が、

【化 2】



であり、 R_1 が、水素、ヒドロキシル、アルキル、または以下の式：

【化 3】



を有し、

R_2 が、アルキルまたはアリアルであり、そして n が 1～6 である、組成物。

【請求項 2 2】

請求項 2 0 に記載の組成物であって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテミシニン、ジヒドロアルテミシニン、アルテムエーテル、アルテエーテル、アルテスネート、アルテリン酸およびジヒドロアルテミシニンプロピル炭酸塩からなる群から選択されるセスキテルペンである、組成物。

【請求項 2 3】

請求項 2 2 に記載の組成物であって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテミシニンである、組成物。

【請求項 2 4】

請求項 2 2 に記載の組成物であって、前記エンドペロキシド化合物が、アルテムエーテルである、組成物。

【請求項 2 5】

請求項 2 0 に記載の組成物であって、約 0.1 mg/kg～約 20 mg/kg の前記エンドペロキシド化合物が、一日毎に前記被験体に投与される、組成物。

【請求項 2 6】

前記組成物が、経口投与または局所投与のために処方される、請求項 2 0 に記載の組成物。

【請求項 2 7】

請求項 1 9 に記載の組成物であって、前記フリーラジカル生成剤が、アルテミシニンであり、前記組成物が、一日当たり約 0.1 mg/kg～約 20 mg/kg の間の投薬量で投与される、散剤、錠剤、またはカプセル剤の形態である、組成物。

【請求項 2 8】

請求項 1 9 に記載の組成物であって、前記フリーラジカル生成剤が、癌の発生の遅延を提供する、組成物。

【請求項 2 9】

請求項 1 9 に記載の組成物であって、前記フリーラジカル生成剤が、癌の発生の減少した可能性を提供する、組成物。

【請求項 3 0】

請求項 1 9 に記載の組成物であって、細胞内鉄増加剤をさらに包含する、組成物。

【請求項 3 1】

請求項 1 9 に記載の組成物であって、前記細胞内鉄増加剤が、フェロコリネート、フェログリシン流酸塩、デキストラン鉄錯体、ペプトン化鉄、鉄ソルビテクス、酸化第二鉄、サッカレート鉄、ホロフェリチン、およびホロトランスフェリンからなる群から選択される、組成物。